

< 第 1 号議案 >

2013 年度事業報告

1. 会議

総会	11 月 1 日			
臨時社員総会	10 月 31 日			
定時社員総会	3 月 24 日			
理事会	3 月 24 日	8 月 25 日	10 月 5 日	12 月 14 日
常任理事会	2 月 22 日	7 月 25 日	9 月 20 日	11 月 29 日

2. 学術集会 第 60 回学術集会 10 月 31 日～11 月 3 日 (神戸)

3. 刊行物

機関紙	第 61 卷 1～12 号	Supplement	第 61 卷 補冊
名簿	刊行しない		

4. 臨床検査専門医、管理医、研修施設 認定

- ・臨床検査専門医認定試験 8 月 17 日～8 月 18 日 (兵庫医科大学)
- ・臨床検査専門医・管理医更新 1 月 1 日
- ・認定研修施設の認定・更新 1 月 1 日, 7 月 1 日
- ・臨床検査管理医講習・認定試験 9 月 15 日 (東京大学)

5. 会員数

	2012 年度	2013 年度
会員数(合計)	2,919 名	2,956 名
正会員	2,653 名	2,674 名
(評議員)	(254 名)	(245 名)
学生会員	91 名	101 名
名誉会員	42 名	42 名
功労会員	133 名	139 名
賛助会員	32 社	32 社

6. 関連団体 (事業)

- 1) 第 23 回日本臨床検査専門医会春季大会 (箱根) 6 月 28 日～29 日
- 2) 2013 年度 JCCLS 学術集会 (東京) 8 月 31 日
- 3) WASPaLM XXXVII World Congress (ケベック) 6 月 8 日～11 日
- 4) 日本臨床化学会 第 53 回年次学術集会 (徳島) 8 月 30 日～9 月 1 日
- 5) 日本臨床検査自動化学会 第 45 回大会 (横浜) 10 月 10 日～12 日
- 6) 日本臨床検査同学院 6 月～11 月
遺伝子分析科学認定士試験、二級臨床検査士試験、緊急検査士試験、
一級臨床検査士試験
- 7) 認定検査技師機構 理事会 8 月 5 日
- 8) 日本専門医制評価・認定機構 社員総会 2 月 28 日 5 月 8 日
- 9) 臨床検査振興協議会 理事会 3 月 1 日 5 月 29 日
8 月 22 日 11 月 7 日

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

1) 社会公共性への取組み

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。臨床検査は医療の根幹をなすものであるという中医協の認識が示されていますが、その通りには評価を受けていないと思われる現状があります。また、一方では、コンパニオン診断などの先端の検査の適正な在り方、DTC(Direct to Consumer)検査や簡易検査所(仮称)などでの臨床検査の精度保証の問題が大きな議論になっています。

以上の状況に鑑み、本学会は、学術集会や学会誌等での臨床検査の社会的役割について啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しておりますし、今後もその努力を継続させていく所存です。

また、本学会は、日本専門医制評価・認定機構から認定された基本領域学会のひとつとして、社会から求められている日本の専門医制度の確立に向け、臨床検査専門医卒後研修評価法の作成・公表や、認定試験の改善を行っています。日本専門医制評価・認定機構の活動にも全面的に協力しています。

2) 学会活動

学会の事業の一環として、①2013年10月31日～11月3日に神戸で第60回学術集会を開催し、学会員を中心に約2000名が参加、②雑誌「臨床病理」(第61巻)の年12回刊行、③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」、「臨床検査管理医」試験実施など、幅広い活動を展開しました。

以下、2013年度の各委員会活動の概要です。

1) 学術推進化委員会(委員長:出原賢治、担当理事:藤田清貴)

平成24・25年度学術推進プロジェクト研究課題として採択した4題については進行中である。平成26・27年度学術推進プロジェクト研究課題の募集要項を12月に公開した。

2) 編集委員会(委員長:村上正巳、担当理事:宮地勇人)

①投稿総数は80編(うち座長推薦論文7編)で、受理37編、返却7編である。

②優秀論文賞候補3論文を推薦した。

③編集委員会企画のトピックス(総説)を11月号より毎号掲載する。

④原著と経験・技術の区別を明確にするために、「経験・技術」を廃止し、2014年1月より「Letter」を新設した。

3) 教育委員会(委員長:山田俊幸、担当理事:北島 勲)

①2017年にスタートする新専門医制度での基本研修プログラムを、2013年度内に各学会で

策定するようにとの機構からの要請に応え、2013年12月末に委員会で原案を策定し、理事会で検討後、2014年3月の時点で一応の最終案をまとめた。同時に指導医マニュアルの委員会原案をまとめた。

②学術集会時に昨年同様、「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」を開催した。

③専門医試験問題の公開を理事会に要望した。

4) 臨床検査点数委員会（委員長：東條尚子、担当理事：米山彰子）

日本臨床検査専門医会保険点数委員会と合同委員会を開催し、2014年度診療報酬改定提案書を作成し内保連を通じて厚労省に提出した。既収載35件（日本臨床微生物学会との共同提案6件）、日本神経学会、日本てんかん学会、日本臨床神経生理学会が本学会との共同提案として提出したものの未収載1件、既収載4件であった。臨床検査振興協議会医療政策委員会、内保連検査関連委員会生体検査WGの活動に協力した内容も反映された。

5) 学会賞委員会（委員長：三井田孝、担当理事：矢富 裕）

学会賞の数や内容について検討し、①学会賞との違いが不明確だった生命科学賞と優秀賞を廃止、②奨励賞を40歳未満の会員に授与する若手研究者奨励賞に変更、③Bergmeyer-Kawai賞を廃止、本法人の発展に多大な貢献をした会員への功労賞として河合忠賞を新設、という改訂案を上申して理事会の承認を得た。新規定により2013年度の学会賞の募集と審査を行い、決定した受賞候補者について理事会で承認を得た。例年どおり、学術集会で受賞講演を行った。

6) 標準化委員会（委員長：古田 耕、担当理事：前川真人）

①2012年に起案し、検討をはじめた臨床検査検体の劣化に関する検討結果を解析した。一部の施設は、倫理審査の関係で2013年に入って検討を行った。

②①の多施設による検討結果の概略を米国 Bethesda で7月に行われた Cryobiology の学会で poster 発表した。

③第60回学術集会で当委員会の研究成果も含めて「ヒト液性試料の質 -検査や解析に適正な試料を得るために-」のシンポジウムを主催した。また、同シンポジウムの概略を臨床病理誌に投稿中である。

7) 精度管理委員会（委員長：前川真人、担当理事：×谷直人）

①2013年度 CAP サーベイには109施設（対前年+4）が参加した。内訳は新規6施設、中止2施設である。新規参加6施設のうち治験参加を目的とする施設が半数あった。遺伝子検査の参加施設も13施設（+6）であった。

②グローバルニュースは予定通り、年4巻発刊している。1年前から電子版を提供しているが、有益な情報を多く含むコンテンツにしているため、是非利用願いたい。メール発信も検討中である。

8) EBLM 委員会（委員長：石田 博、担当理事：村上正巳）

①EBLM 講習会の開催；学術集会にあわせて開催し、基礎編21名、応用編23名の参加者を得て多変量解析の演習を中心に行った。

②共同研究と学術集会シンポジウムでの報告：「多施設間の検査データ活用における現状と今後の課題」をテーマに JLAC10 コードに対する取組みを紹介いただくとともに、委員の共同研

究による複数施設でのデータ蓄積法、長期的な検査値変動解析や診断能解析の結果、および、今後の検査値共有による研究等に向けた方策について報告した。

9) 倫理委員会（委員長：通山 薫、担当理事：村上正巳）

第 60 回学術集会期間中（10 月 31 日）に委員会を開催した。

- ①「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用についての学会の見解」の遵守状況や意見・問題点等を、会員とくに検査部長・技師長会メンバーを対象に、アンケート方式で尋ねる方針で合意された。現在アンケートの準備中である。
- ②学会発表に際して演題登録時の倫理規定のチェック方式については継続審議となった。
- ③委員の一部交代時期を迎えることとなった。

10) 利益相反委員会（委員長：佐藤尚武、担当理事：村上正巳）

- ①「医学研究の利益相反（COI）に関する指針」を作成した。
- ②ランチョンセミナーなど企業主催のセミナーに関しては、COI の開示対象外としていたが、これらも開示の対象とすることにした。
- ③日本医学会から「医学研究に関する利益相反（COI）対応の現状についてのアンケート調査」に編集委員会と分担して回答した。
- ④第 4 回日本医学会分科会利益相反会議に分科会として参加した。
- ⑤細則および COI 申告書式を作成中である。

11) コンプライアンス委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：村上正巳）

委員会の活動や会員の処分を規定した内規案をまとめた。

12) ガイドライン作成委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：北島 勲）

- ①平成 25 年 8 月 8 日に日本内科学会雑誌の企画として、JSLM2012 を取り上げ、大学病院や一般病院の勤務医、開業医、研修医を交え座談会を行い、その内容が「臨床検査の適正使用 ～臨床検査を有効かつ適切に活用する～」と題して、日本内科学会雑誌（Vol.102(12):3190-3196, 2013）に掲載された。
- ②第 60 回学術集会（神戸）にて開催された委員会特別企画 1「臨床検査のガイドライン JSLM2012 の活用法 ～改訂のポイントを一刀両断～」の内容につき、その概要を臨床病理誌に投稿準備中である。

13) 専門医・管理医委員会（委員長：菊池春人、担当理事：北島 勲）

- ①2013 年 11 月 1 日に開催された「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」（日本医師会・日本臨床検査専門医会共催）へ協力。
- ②2013 年 10 月 31 に第 1 回委員会を開催し、専門医・管理医を増やす方策について議論がなされた。管理医と専門医のコミュニケーションを図ることについての意見がだされた。また、本委員会のミッションを考えると、専門医制度の変化のなかで他の委員会との合同の形がよいのではないかとの提案がなされ、その後の理事会で教育委員会への統合がなされることになった。

14) 遺伝子委員会（委員長：宮地勇人、担当理事：横田浩充）

- ①遺伝子関連検査の質保証確保に向けて各種ガイドライン普及に向けた方策に関する検討を

行った。

②遺伝子関連検査の新たな展開として、無侵襲的出生前遺伝学的検査や DTC/OTC の遺伝子関連検査の動向と課題について取り纏めを行った。

③臨床検査振興協議会医療政策委員会 WG-D「コンパニオン診断薬」（目的：薬事承認と保険償還について実態の把握と課題解決を協議）の活動として、提言取り纏めに関して調査と提案を行った。

15) 国際委員会（委員長：渡邊直樹、担当理事：尾崎由基男）

本学会には、若手会員の国際学会での発表を促進するため、奨励金制度「国際学会奨励賞」がある。その周知を図る目的で、応募受付期間の短縮（発表の翌年 3 月末まで）と応募様式の変更を行い、学術集会で表彰することとした。平成 25 年発表分については、3 月 13 日時点で 2 名の応募があり、4 月 1 日以降に平成 24 年発表分の応募者 3 名とともに、審査を行う予定である。

16) 医療安全委員会（委員長：吉田 博、担当理事：✕谷直人）

第 1 回医療安全委員会（5 月 9 日）にて日本医療安全調査機構の「診療行為に関連した調査モデル事業」における当学会の担当委員を当委員会委員から選出し、同機構から委嘱状が送付された。第 60 回学会の医療安全シンポジウムは「臨床検査における個人情報の管理について」をテーマとして開催された。第 2 回医療安全委員会が第 60 回学会期間中に開催され、次年度の医療安全シンポジウムのテーマは「チーム医療」となった。学会後のメール審議が行われ、医療安全委員会活動および医療安全シンポジウムの成果から学会員への情報発信の場の構築が議論され、「医療安全インフォメーション」（原則として学会員のみがアクセス可能であり、利用は閲覧に限定）という枠組みを設けて、学会ホームページに掲載することが委員会からの提案として決定した。その他、

「医療安全全国共同行動」の会議が 7 月 27 日および 11 月 22 日（医療安全全国フォーラム）に東京で開かれ、吉田博委員長が出席した。

17) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：佐守友博）

①2013 年度は、4 回の委員会を開催した。JLAC10 の新規登録を、分析物コード 12 件、識別コード 11 件、測定法コード 4 件、結果識別（固有）コード 139 件実施した。

②臨床検査項目標準マスター運用協議会にて、JLAC10・臨床検査マスターの改善について昨年に引き続き検討している。参加団体と共同で、3 回の WG 会議を開催した。また、JLAC10 コードを迅速に付番するための新運用を開始した。

18) 広報委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：佐守友博）

①学会広報委員も参加する臨床検査振興協議会広報委員会により広報用 DVD「みんなの臨床検査」が作成された。今後の学会広報活動にも利用できる。

②学会ホームページについては全面的に改訂する必要があるとあり、掲載内容は広報委員会を通じて提案し、事務的作業は専門業者に依頼するのが良いと考えられる。加えて広報グッズ作製や、臨床検査振興協議会と協調した活動を行うための予算計上について担当理事から理事会に提案して頂く。

19) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：海渡 健、担当理事：米山彰子）

臨床検査室の院内評価を高め、他検査室との比較を可能にするため、経営・採算面（収支、

必要経費、人件費等)、検査態勢体制(検査項目、人員等)、臨床支援体制(外注比率、チーム医療参加状況、問い合わせ件数等)、学問的体制(学会参加状況、専門技師比率、作成論文数等)、以上4つの項目に分けてアンケートを作製する事となった。

20) 会則改定委員会(委員長: 谷直人、担当理事: 米山彰子)

①2013年3月24日の理事会ならびに定時社員総会にて承認決定され、翌日の3月25日より本定款の運用を開始した日本臨床検査医学会定款において若干の訂正箇所が認められたため修正し、2014年3月29日の理事会ならびに定時社員総会に提出した。

②2013年8月25日の理事会にて承認決定され、翌日の8月26日より本定款の運用を開始した日本臨床検査医学会細則について、いくつかの問題点が認められたために改訂作業を行い、2014年3月29日の理事会に提出した。

21) 渉外委員会(委員長: 安東由喜雄、担当理事: 尾崎由基男)

企業、他学術団体とのcollaborationの道を探るため情報収集をしたが、特に、会合を持つなど、具体的な活動はなかった。

22) 日臨技-JSLM 合同未来構想WG(委員長: 本田孝行、担当理事: 尾崎由基男)

日本臨床検査医学会(JSLM)および日本臨床衛生検査技師会(日臨技)から理事を中心とした3名ずつの委員で論議し、以下の5項目を両会に提案した。

①日臨技およびJSLMの理事会・各種委員会に相互の理事および委員を派遣する。

②専門臨床検査技師認定の統一化を図る。

③年次学術集会の合同開催を試みる。

④臨床検査技師留学制度の構築。

⑤検体部門を外から見える部門にする。

23) チーム医療WG(委員長: 諏訪部章、担当理事: 米山彰子)

①平成25年7月11日、厚労省チーム医療推進WGが開催した特定看護業務説明会に諏訪部が参加し、本学会からのパブリックコメントを取りまとめ提出した。

②平成25年11月2日の学術集会で、「一致団結! 臨床検査とチーム医療」と題した委員会特別企画2が開催された。これを受けて12月の理事会で本WGが正式に委員会として認められた。

③日臨技「検査説明・相談のできる技師育成WG」に米山・諏訪部が学会から委員として推薦され、平成25年12月6~8日に開催された全国企画担当者研修会にスタッフとして参加した。

④厚労省の推進する臨床検査技師教育内容見直しの研究班に諏訪部が学会から委員として推薦され、検体採取や味覚・嗅覚検査などの業務拡大に向けて制度的な取りまとめを行う。

24) 研修施設・指導者認定委員会(委員長: 村上正巳)

1月1日、7月1日付での新規申請施設、再認定施設の、研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

25) 受験・更新資格審査委員会(委員長: 土屋達行)

①2013年度臨床検査専門医初回受験応募者20名の審査を行い、20名を受験有資格者と判定した。

② 臨床検査管理医の認定試験受験者 23 名の審査を行い有資格者として認定した。

③ 臨床検査専門医資格更新者について

更新単位を満たした更新者：83 名

単位不足であるが 65 歳以上のため過渡的処置で更新した更新者：10 名

初回更新者：26 名

以上、更新者合計：119 名

保留申請者：6 名

更新申請書類未提出者（更新保留とする）：49 名

専門医返上、更新辞退：4 名

④ 臨床検査管理医更新者について

更新単位を満たした更新者：116 名

更新単位不足による更新保留者：10 名

更新保留申請者：18 名

更新申請書類未提出者（更新保留とする）：60 名

26) 試験委員会（委員長：高橋伯夫）

8 月 17 日、18 日実施の臨床検査専門医認定試験内容などについて検討を行い、臨床検査専門医認定試験の合否案を試験実行委員会との合同会議で作成し、本委員会では合否判定を行った。

27) 臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：小柴賢洋）

8 月 17 日、18 日に臨床検査専門医認定試験を実施した。

28) 臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：矢富 裕）

9 月 15 日に臨床検査管理医講習・認定試験を実施した。

29) 臨床検査専門医制度検討委員会（委員長：土屋達行）

① 他施設で研修が可能なように学会として取り組むためのアンケートを研修施設からとり集計した。

② 臨床検査専門医を基本領域の専門医として維持することを理事会に上申した。

③ 臨床検査専門医の行う日常業務の指針の作成を教育委員会に依頼した。

指導医のためのプログラムの作成も教育委員会で同時に行う。

2 対処すべき課題

1) 学会活動の活性化

社会の発展を支える人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発を支える臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学会賞や、学術推進プロジェクトによる社員の研究活動のさらなる推進とともに、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成も急務です。また、日本臨床衛生検査技師会との有機的な連携も重要と考えており、継続的に議論しております。

2) 社会の求める臨床検査専門医・臨床検査管理医養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必要と考えています。臨床検査専門医養成については、「臨床検査専門医卒後研修カリキュラム」を 2007 年に発刊しましたが、

さらによい専門医養成教育カリキュラムに改定すべく、教育委員会を中心に検討を続けております。臨床検査管理医については、教育カリキュラムの作成と公表、認定に関わる試験方法の改善について検討を続けております。検体管理加算（Ⅳ）などの高い評価を考えますと、臨床検査（室）を的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医を数多く養成することは本学会の責務と考えています。日本専門医機構の目指す専門医像と整合させる形で、よりよい専門医制度を構築していきたいと考えています。

3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上

医療倫理の観点から、本学会では、2002年に「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を倫理委員会が中心となり作成、公表しましたが、「臨床研究に関する指針」が2008年7月に全面改正されたこと等を考慮し、2010年2月に、倫理委員会が中心となって、新たな「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を作成・公表いたしました。今後も、臨床検査に携わる全ての人々に周知徹底させる必要があると考えています。

また、2012年度からは利益相反委員会を新たに立ち上げ、学会の公正性・透明性を高めております。2012年の学術集会においては、全発表において、利益相反状態の開示を義務づけ、これを継続しています。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

4 事業成績及び財産の状況の推移

(単位:円)

区分	平成22年度 第5期 22.1.1～22.12.31	平成23年度 第6期 23.1.1～23.12.31	平成24年度 第7期 24.1.1～24.12.31	平成25年度 第8期 25.1.1～25.12.31
1 会費収入	42,691,000	35,336,000	40,792,000	39,792,000
2 事業収入	28,030,421	30,970,073	44,737,278	40,003,020
3 助成金収入	12,000,000	6,000,000	0	0
4 補助金収入	0	0	0	0
5 寄付金収入	2,500,000	1,000,000	14,000,000	14,000,000
6 事業費	61,502,705	57,745,475	70,299,076	60,063,738
7 管理費	21,359,988	25,409,831	26,346,785	23,020,011
8 当期経常増減額	2,358,728	△ 9,849,233	△ 4,351,908	△ 2,262,078
9 税引前当期利益	6,309,005	△ 9,769,013	△ 4,351,908	△ 2,262,078
10 当期正味財産増減額	6,239,005	△ 9,839,013	△ 4,351,908	△ 2,332,078
11 資産合計	164,719,324	163,043,393	163,942,653	155,284,469
12 純資産合計	162,508,201	152,669,188	148,247,280	145,915,202
13 基金	147,000,000	147,000,000	147,000,000	147,000,000

II 法人の概況

1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、

臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定に関すること
- ④ 臨床検査技術士、緊急臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定に関すること
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（2013年12月31日現在）：245名

3 役員（2013年12月31日現在） 23名

理事	村田 満	（理事長・代表理事）
	前川 真人	（副理事長・代表理事）
	矢富 裕	
	北島 勲	
	村上 正巳	
	宮地 勇人	
	伊谷 直人	
	米山 彰子	
	安東由喜雄	
	佐守 友博	
	尾崎由基男	
	野島 孝之	
	藤田 清貴	
	横田 浩充	
	渡邊 直樹	
	賀来 満夫	
	本田 孝行	
	和田 隆志	
	田窪 孝行	
	杉浦 哲朗	
康 東天		
監事	一山 智	
	高木 康	

4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実記載すべき事項は、ありません。

『 決算報告書 』

《 貸借対照表 》

2013年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

【流動資産】	151,312,378	【流動負債】	6,569,267
現金・預金	148,989,431	未払金	2,109,326
未収会費	765,000	前受管理医申請料	75,000
未収外部販売収入	698,900	前受管理医更新料	1,200,000
未収広告収入	470,400	前受会費	1,603,000
未収出版事業収入	188,055	預り金	214,941
未収冊子収入	200,592	前受専門医更新料	1,297,000
【固定資産】	3,972,091	未払法人税等	70,000
(有形固定資産)	77,131	【固定負債】	2,800,000
付属設備	263,550	退職給与引当金	2,800,000
減価償却累計額	-186,419	負債合計	9,369,267
(無形固定資産)	305,760	純資産の部	145,915,202
電話加入権	305,760	【基金】	145,915,202
(投資その他の資産)	3,589,200	基本金	147,000,000
敷金	3,589,200	(利益剰余金)	-1,084,798
		[その他利益剰余金]	-1,084,798
		繰越利益剰余金	-1,084,798
		純資産合計	145,915,202
資産合計	155,284,469	負債・純資産合計	155,284,469

一般社団法人 日本臨床検査医学会

《2013年度決算報告》

一般会計 (自 2013年1月1日 至 2013年12月31日)

(単位:円)

	予 算	実 績	差 額
[事業収入]			
正会員会費収入(学生会費含)	32,000,000	33,845,000	1,845,000
功労会員会費収入	1,029,000	812,000	-217,000
評議員会費収入	250,000	241,000	-9,000
賛助会費収入	4,000,000	3,400,000	-600,000
臨時会費収入	1,200,000	1,494,000	294,000
専門医試験受験料収入(再受験含)	1,500,000	1,160,000	-340,000
専門医登録料収入	900,000	600,000	-300,000
専門医更新料収入	830,000	830,000	0
管理医試験受験料収入	1,200,000	720,000	-480,000
管理医申請料収入	65,000	65,000	0
管理医登録料収入	240,000	240,000	0
管理医更新料収入	790,000	790,000	0
外販収入	13,800,000	8,828,324	-4,971,676
広告収入	4,000,000	3,427,200	-572,800
出版事業収入	1,100,000	633,675	-466,325
許諾使用料収入	500,000	558,196	58,196
臨床検査ガイドライン冊子収入	1,000,000	573,480	-426,520
検査診断事典編集・著作権使用料収入	2,000,000	1,741,498	-258,502
会議室使用料収入	1,500,000	1,416,628	-83,372
日医女性医師支援センター(若手医師の集い)補助金	300,000	297,420	-2,580
特別会計より:臨床検査のガイドライン2012費用補填	6,740,727	6,740,727	0
第59回(京都)学術集会より	4,028,380	4,028,380	0
雑収入	-	79,800	79,800
事業総収入	78,973,107	72,522,328	-6,450,779
[事業経費]			
学会機関紙発行費用	27,000,000	28,645,464	1,645,464
支部活動補助金	2,900,000	2,832,500	-67,500
各種委員会活動補助金	3,000,000	2,936,080	-63,920
第60回学術集会補助金	4,000,000	4,000,000	0
第61回学術集会補助金	1,000,000	1,000,000	0
専門医認定試験費用	2,000,000	1,967,053	-32,947
管理医講習・認定試験費用	500,000	558,303	58,303
会員証発行費用	50,000	42,284	-7,716
諸会費	2,600,000	1,902,856	-697,144
臨床検査のガイドラインweb掲載料・送料	30,000	40,133	10,133
2012年度名簿送料	0	239,065	239,065
会議費	900,000	724,775	-175,225
旅費交通費	3,000,000	2,765,514	-234,486
通信費	1,400,000	1,185,668	-214,332
事務用品・印刷・リース費	1,700,000	1,835,725	135,725
事務委託費	1,260,000	1,260,000	0
顧問料	945,000	945,000	0
交際費(慶弔費)	50,000	64,893	14,893
事務所賃借料	5,700,000	5,652,984	-47,016
事務所諸経費	600,000	590,642	-9,358
事務所備品代	300,000	240,720	-59,280
水道光熱費	400,000	380,286	-19,714
給与・手当	6,000,000	5,073,369	-926,631
法定福利費	800,000	799,313	-687
退職掛金	300,000	300,000	0
消耗品費	200,000	194,445	-5,555
法人登記変更等費用	100,000	97,650	-2,350
雑費(支払手数料等)	300,000	227,664	-72,336
減価償却費	0	15,463	15,463
若手の会諸費用	300,000	297,420	-2,580
予備費	11,468,107	6,740,727	-4,727,380
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
納付消費税等	100,000	356,300	256,300
事業経費合計	78,973,107	73,982,296	-4,990,811
事業収支差額	0	-1,459,968	-1,459,968
[事業外収入]			
受取利息	1,200	3,399	2,199
事業外収入合計	1,200	3,399	2,199
[事業外経費]			
事業外支出合計	0	0	0
事業外収支差額	1,200	3,399	2,199
経常収支差額	1,200	-1,456,569	-1,455,369

《2013年度決算報告》

特別会計

自 2013年1月1日 至 2013年12月31日

(単位:円)

[事業収入]	予 算	実 績	差 額
日本臨床検査自動化振興会寄付金収入	—	—	—
JACLaSからの寄付金収入	12,000,000	12,000,000	0
一般会計より:臨床検査のガイドライン 費用補填分返金	—	6,740,727	6,740,727
事業総収入	12,000,000	18,740,727	6,740,727

[事業経費]	予 算	実 績	差 額
雑費(支払手数料)	3,000	2,940	-60
事業経費合計	3,000	2,940	-60
事業収支差額	11,997,000	18,737,787	6,740,787

[事業外収入]

受取利息	0	0	0
事業外収入合計	0	0	0

[事業外経費]

第60回学術集会補助金補填分	12,000,000	12,000,000	0
一般会計へ:臨床検査のガイドライン費 用補填分	6,740,727	6,740,727	0
事業外支出合計	18,740,727	18,740,727	0
事業外収支差額	-18,740,727	-18,740,727	0
経常収支差額	-6,743,727	-2,940	6,740,787

《2013年度決算報告》

アジア交流基金

自 2013年1月1日 至 2013年12月31日

(単位:円)

[事業収入]	予 算	実 績	差 額
	0	0	0
事業総収入	0	0	0

[事業経費]	予 算	実 績	差 額
雑費(支払手数料)	3,000	0	-3,000
事業経費合計	3,000	0	-3,000
事業収支差額	-3,000	0	-3,000

[事業外収入]			
受取利息	700	600	-100
事業外収入合計	700	600	-100

[事業外経費]

事業外支出合計	0	0	0
事業外収支差額	700	600	-100
経常収支差額	-2,300	600	-2,900

《2013年度決算報告》

学会賞基金

自 2013年1月1日 至 2013年12月31日

(単位:円)

[事業収入]	予 算	実 績	差 額
寄付金収入(協賛社より)	1,000,000	1,000,000	0
寄付金収入(河合忠元会長より)	2,000,000	2,000,000	0
事業総収入	3,000,000	3,000,000	0

[事業経費]	予 算	実 績	差 額
学会賞副賞	1,300,000	1,300,000	0
学術推進プロジェクト研究助成金	2,500,000	2,500,000	0
国際学会奨励賞副賞	100,000	100,000	0
租税公課			
雑費(支払手数料)	10,000	9,240	-760
事業経費合計	3,910,000	3,909,240	-760
事業収支差額	-910,000	-909,240	-760

[事業外収入]			
受取利息	0	0	0
事業外収入合計	0	0	0

[事業外経費]

	0	0	0
事業外支出合計	0	0	0
事業外収支差額	0	0	0
経常収支差額	-910,000	-909,240	-760

次の通り、第59回日本臨床検査医学会学術集会の収支をご報告いたします。

収支報告書

開催日:平成24年11月29日から12月2日

I 収入の部

1.参加料収入		
一般会員	(@10,000x1,835名)	18,350,000
学生会員	(@5,000x82名)	410,000
共催シンポジウム	(@5,000x50名)	250,000
		19,010,000
2.共催収入		
ランチョンセミナー(A)	(@1,260,000x8社)	5,040,000
ランチョンセミナー(B)	(@1,050,000x11社)	11,550,000
ランチョンセミナー(C)	(@87,500x6社)	525,000
		17,115,000
3.広告収入		
プログラム広告		1,900,500
4.寄付金収入		
		2,800,000
5.商業展示出展料収入		
		199,500
6.会員懇親会会費収入		
	(@4,000x138名)	552,000
7.助成金収入		
日本臨床検査医学会本部より		17,000,000
8.附帯設備等使用料収入		
		355,050
9.普通預金利息		
		1,729
	収入の部合計	58,933,779

II 支出の部

1.学術集会準備費		
文具・什器・備品費	50,400	
印刷・製作費	4,422,079	
委員会関係経費	454,016	
演題処理関係経費	4,807,430	
その他準備経費	1,376,680	11,110,605
2.学術集会当日運営費		
文具・什器・備品費	1,389,464	
会場借料費	10,723,162	
会場設営費	3,638,176	
音響施設・機材関係費	12,300,019	
人件費	3,935,724	
印刷・製作費	329,952	
招請費	3,101,885	
宴会関係費	4,508,141	
その他当日運営費	1,584,785	41,511,308
3.学術集会后処理費		
印刷・製作費	269,800	
通信費	25,570	
その他事後経費	411,197	706,567
4.業務委託費		
日本コンベンションサービス㈱		1,476,618
5.会計事務所手数料		
蛤谷会計事務所		100,000
	支出の部合計	54,905,098
	収支差額	4,028,681

部門別 現預金残高(2013年12月31日現在)

2013/12/31

事業	預金種別	銀行名	残高
一般会計部門	普通預金	三菱東京UFJ銀行2358455	4,547,056
	普通預金	三井住友銀行神田支店2468682	804,239
		郵便振替法人00140-9-613334	29,792,711
	現金		715,647
		小計	35,859,653
特別会計部門	普通決済専用型預金	三菱東京UFJ銀行神保町支店2422465	75,915,109
		小計	75,915,109
アジア交流基金部門	普通預金	三菱東京UFJ銀行神保町支店2422478	3,761,378
学会賞基金部門	普通決済専用型	三菱東京UFJ銀行神保町支店2422481	13,603,721
	普通決済専用型預金	三井住友銀行神田支店2468693	15,149,619
	河合忠賞基金 普通預金	三菱東京UFJ銀行神保町支店0529289	1,899,685
		小計	30,653,025
		預金残高 合計	146,189,165
退職金積立	普通預金	三菱東京UFJ銀行神保町支店0441780	2,800,266
		預金残高 合計	148,989,431

監査報告書

2013年1月1日から2013年12月31日までの第8期事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

監事は、社員総会その他重要な会議に出席するほか、理事等から事業の遂行の状況について報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主たる事務所等において業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表及び損益計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表及び正味財産増減計算書は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 附属明細書は、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は、認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

2014年 3 月 23 日

一般社団法人日本臨床検査医学会

監事

高 木 康 

監事

— 山 智 

第2号議案

2014・2015年度役員の内

1 理事長

2012年就任

村田 満(慶應義塾大学)

2 理事

1) 選挙理事

2012年就任

米山 彰子(虎の門病院)

佐守 友博(日本医学臨床検査研究所)

安東由喜雄(熊本大学)

北島 勲(富山大学)

2014年就任

前川 真人(浜松医科大学) : 重任

山田 俊幸(自治医科大学)

諏訪部 章(岩手医科大学)

小柴 賢洋(兵庫医科大学)

2) 支部理事

北海道支部 清水 力(北海道大学)

東北支部 賀来 満夫(東北大学) : 重任

関東・甲信越支部 本田 孝行(信州大学) : 重任

東海・北陸 清島 満(岐阜大学)

近畿支部 一山 智(京都大学)

中国・四国支部 杉浦 哲朗(高知大学) : 重任

九州支部 康 東天(九州大学) : 重任

3) 指名理事

野島 孝之(金沢医科大学) : 重任

東條 尚子(東京医科歯科大学)

藤田 清貴(群馬パース大学) : 重任

横田 浩充(東邦大学) : 重任

2 監事

高木 康 (昭和大学) 2012～2015年度

尾崎由基男 (山梨大学) 2014～2017年度

継続 理事長・理事・監事について

細則附則により、2012年に就任した理事長、理事、監事の任期は、2016年の定時社員総会までとなります。

細則 附則

1. 本法人の役員の任期は、本定款および細則変更の効力発生後に就任する者について適用する。
2. 平成 24 年 1 月に就任した本法人の理事長と選挙理事と監事の任期は、平成 28 年の定時社員総会でとする。
3. 平成 22 年 1 月に就任した本法人の選挙理事と監事の任期は、平成 26 年の定時社員総会までとする。